

紋別市における景気動向調査報告書

＜平成 16 年度 第 3 四半期＞

紋別商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 平成 17 年 1 月 1 日
- (2)調査対象期間 平成 16 年 10 月～12 月期の実績および平成 17 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会の 5 業種 150 社を対象に、郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	14 社	46.7%
水産業部会	30 社	22 社	73.3%
機械工業部会	30 社	19 社	63.3%
建設業部会	30 社	24 社	80.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	23 社	76.7%
合 計	150 社	102 件	68.0%

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）で、好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す。

II. 概 況

1. 全体の動き

紋別市景気動向調査の第 3 四半期（10～12 月）における業況は、前年同期と比較し「好転・やや好転 企業」15.7%、「悪化・やや悪化 企業」56.9%、「好転」から「悪化」を差し引いた D・I 値は▲41.2 となった。

今回の業況を部会別に見ると、商業・食品業 D・I 値▲100.0、水産業 D・I 値▲18.2、機械工業 D・I 値▲10.5、建設業 D・I 値▲33.3、観光サービス業・諸業 D・I 値▲60.9 と、全ての部会でマイナスの回答となった。

特に商業・食品業では回答企業の全てが「前年同期より悪化した」との回答を寄せた他、「採算」・「資金繰り」のいずれの D・I 値も▲70ポイントを超える回答となり、当市の商業・小売業界が非常に厳しい状況に置かれていることがうかがえる。

しかしながら他の部会を第2四半期と比較すると、いずれも D・I 値はマイナスながら、水産業 0.9ポイント、機械工業 22.8ポイント、建設業 11.7ポイント、観光・サービス業では 11.8ポイント改善している。

経営上の問題点では、「売上の減少」を訴える声が圧倒的に多く、個別の意見では「道都大学の撤退後が心配」という声が多く聞かれた。

2. 業況判断

		今回調査	前回調査	前年同期
業況判断 D・I	今期実績	▲41.2	▲50.9	
	来期見通し	▲55.0	▲45.6	

第3四半期（10～12月）における業況判断 D・I は、全体で▲41.2となった。業種別にみると、商業・食品業が▲100.0と全ての回答企業が「前年同期より悪化した」との回答を寄せており、非常に厳しい状況がうかがえる。

一方で機械工業は▲10.5と、前期より 22.8ポイント改善しており、さらに基幹産業である水産業がマイナスながらも▲18.2と前期に引き続き安定している。

しかしながら来期については、全体で今期に比べ 13.8ポイント後退する慎重な見通しとなっている。

3. 売上状況

		今回調査	前回調査	前年同期
売上 D・I	今期実績	▲40.2	▲53.4	
	来期見通し	▲61.0	▲48.6	

今期の売上 D・I は、全体で▲40.2となった。業種別にみると、商業・食品業が▲92.9となり、業況判断 D・I と並び非常に厳しい状況がうかがえる。

来期については、全体で今期実績より 20.8ポイント減少するという見通しとなり、今期上向きとなった機械工業においても▲66.7と慎重な見通しとなっている。

4. 資金繰り見通し

		今回調査	前回調査	前年同期
資金繰り D・I	今期実績	▲25.5	▲33.6	
	来期見通し	▲45.0	▲40.7	

今期の資金繰り D・I は、全体で▲25.5となり、前回の見通しより 15.2ポイント向上した結果となった。業種別にみると、前回プラス 4.8であった水産業▲4.5、建設業▲8.3とマイナスながらもほぼ横ばいの中、商業・食品業は▲71.4と非常に厳しい資金繰りとなった。

5. 設備投資の実施







時 期	今回調査	前回調査
今期実施	3.0%	2.9%
来期実施予定	1.0%	0.0%
時期未定だが実施予定	10.9%	19.6%
実施予定なし	85.1%	77.5%

6. 経営上の問題点（複数回答あり）

	今 回 調 査		前 回 調 査	
第1位	売上の不振	70ポイント	売上の不振	68ポイント
第2位	得意先（客足）減少	57ポイント	得意先（客足）減少	50ポイント
第3位	同業者間の競争	36ポイント	同業者間の競争	38ポイント

「経営上の問題点」に関する回答では、本年実施した調査で全て同じ順位となる。売上の不振・過去販売（金額・客数）の減少と、それによる競業の激化を訴える声が多数を占めた。

7. 業種別 D・I について

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光・レ ス・諸業
							
業況判断 D・I	今期実績	▲41.2	▲10.0	▲18.2	▲10.5	▲33.3	▲60.9
	来期見通し	▲55.0	▲71.4	▲27.3	▲50.0	▲56.6	▲74.0
売上 D・I	今期実績	▲40.2	▲92.9	▲27.3	▲15.8	▲25.0	▲56.6
	来期見通し	▲61.0	▲71.4	▲31.8	▲66.7	▲65.2	▲74.0
在庫 D・I	今期実績	▲14.3	▲21.4	▲9.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲43.1	▲78.6	▲45.5	▲21.0	▲20.9	▲60.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲25.5	▲71.4	▲4.5	▲26.3	▲8.3	▲34.8
	来期見通し	▲45.0	▲64.3	▲18.2	▲55.6	▲39.2	▲56.6

※参考

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
				

8. 業種別経営上の問題点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
商業・食品業	売上の不振	得意先(客足)減少	同業者間の競争	その他	
水産業	諸経費増大	売上の不振	人材不足	人件費増	特に問題なし
機械工業	売上の不振	得意先(客足)減少	同業者間の競争	特に問題なし	
建設業	売上の不振	同業者間の競争	得意先(客足)減少	諸経費増大	
観光サービス・諸業	売上の不振	得意先(客足)減少	諸経費増大	人材不足	同業者間の競争

【 部 会 別 の 動 き 】

- 1) 商業・食品業部会
- | | |
|-------|---|
| 売上高 | 前年比で「増加企業」0%、「悪化企業」92.9%と第2四半期より悪化割合が7.9%増え、非常に厳しい状況となっている。 |
| 採算 | 前年比で「増加企業」0%、「悪化企業」78.6%、D・I値▲78.6となっている。 |
| 来期見通し | 業況D・I値▲71.4、売上高D・I値▲71.4、資金繰りD・I値▲64.3となっており、全ての数値で今期より改善されるとの見通しであるが、以前厳しい見通しとなっている。 |
- 2) 水産部会
- | | |
|-------|---|
| 売上高 | 前年比で「増加企業」22.7%、「減少企業」50.0%、D・I値▲27.3と、第2四半期より「減少した」と回答した企業が2.4%増えている。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」18.2%、「悪化企業」63.6%、D・I値▲45.5と、前期よりも31.2ポイントと大幅に悪化した。 |
| 来期見通し | 業況D・I値▲27.3、売上高D・I値▲31.8、資金繰りD・I値▲18.2となった。比較的堅調に推移してきた水産業であるが、事業の閑散期を迎え慎重な見通しとなった。 |
- 3) 機械工業部会
- | | |
|-------|--|
| 売上高 | 前年比で「増加企業」26.3%、「減少企業」42.1%、D・I値▲15.8と、マイナスながら第2四半期と比較し17.6ポイント、第1四半期との比較では31.6ポイント改善している。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」21.1%、「悪化企業」42.1%、D・I値▲21.0と、前期より21.8ポイント改善している。 |
| 来期見通し | 業況D・I値▲50.0、売上高D・I値▲66.7、資金繰りD・I値▲55.6となっており、各値とも比較的堅調であった今期から一転、厳しい見通しをしている。 |
- 4) 建設部会
- | | |
|-------|---|
| 完成工事高 | 前年比で「増加企業」25.0%、「減少企業」50.0%、D・I値▲25.0と、第2四半期よりも25ポイントの改善を見た。 |
| 採算 | 前年比で「好転企業」20.8%、「悪化企業」41.7%、D・I値▲20.9と、第2四半期と比較し34.1ポイントの改善を示し、 |

	来期見通し	業績の2極化がうかがえる結果となった。 業況 D・I 値▲56.6、売上高 D・I 値▲65.2、資金繰り D・I 値▲39.2 となっており、各値とも今期よりも悪化する厳しい見通しになっている。
5) 観光サービス業 ・諸業 部会	売上高	前年比で「増加企業」13.0%、「減少企業」69.6%、D・I 値▲56.6 と、第2四半期と比較し14.9ポイント改善している。
	採算	前年比で「好転企業」8.7%、「悪化企業」69.6%、D・I 値▲60.9 と、第2四半期と比較しわずかに悪化している。
	来期見通し	業況 D・I 値▲74.0、売上高 D・I 値▲74.0、資金繰り D・I 値▲56.6 となっており、流水観光シーズンを迎えるにもかかわらず、各値とも第2四半期より厳しい見通しになっている。

III. 概 況

■商業・食品業部会

- ・中心商店街の空洞化による客足の減少。後継者不足、経営者の高齢化による“やる気”のなさが気になる。広い駐車場(40~50台)が欲しい。活気のある店舗の集合体(複合店舗)があれば・・・
- ・紋別市並びに近隣地域の経済が良くならないなかで、どの企業にあっても景気が良くなることはない。今後の見通しは何も見えてこない。
- ・不況
- ・地元で集めたお金(給与・売上金)を消費の時には、地元には何の経済的効果のない進出店に持っていかれている。全部を地元から消費しろとは言わないが、米・タバコ・酒類位は利用して欲しい。市の職員の方は我々の税金からの給与で生活しているのですから、もう少し地元各店を利用して下さい。
- ・CITY進出により売上減。

■水産業部会

- ・原料(製造)不足のため、非常に困難状態
- ・原料不足
- ・最大のポイントは原料不足、昨年の半分以下
- ・①自然相手の業界なので原料調達が難しくなっている。②世界的な需要の拡大 ③乱獲による原魚の減少 ④消費者の嗜好の多様化 ⑤原料原産地表示、賞味期限等の表示(複雑な仕入れの場合もあるので良く分からない)

■機械・工業部会

- ・次期についての見通しが立たない
- ・都市間での同業者間の競争
- ・この様な調査をいくらしても前向きではない。それより紋別市に大学を再建したら良いと思う。(私立医科大学等)もちろん無償で道都大学より施設を貰い受けてだが。大学の活用を官民一体で推進して欲しい。
- ・仕入先倒産。業界内で格差が大きく、自社関連が悪い。あと1年もたない。

■建設業部会

- ・全体的に不況感が強く、受注減は否めない。補助金の積極的活用やPFI事業の導入等、行政ももっと積極的に動き、スピーディな仕事をして欲しい。

- ・冬期間はほとんど仕事になりません
- ・当社は 17 年度において厳しい年を迎えると思い、人件費・諸経費の削減がどこまでやれるか検討しております。

■観光・サービス業部会

- ・学生が土曜休みになってから売上が減少しました。
- ・人口減に不安。
- ・紋別が不景気すぎる。パチンコ店の閉店時間が遅すぎて影響ある。
- ・先が見えない今日この頃で毎日が大変です。乗り越えていく方法が見あたらないので、教えて欲しいくらいです。
- ・人材というより人手不足
- ・良いことで自分達でやれる事は人の真似をしてでもするようにすること。自分でやらなくどうして他人がしてくれますか。店をしている人がもっと考えてやることぞ、と思います。
- ・常に創意工夫し、努力をすることによって道は拓かれる。